

国経研だより

神奈川大学 国際経営研究所
〒259-1293 平塚市土屋 2946
神奈川大学湘南ひらつかキャンパス
Tel. 0463-59-4111 (内線 2200)

研究所の地域交流事業計画

照屋行雄

1 地域交流事業の性格

神奈川大学国際経営研究所 (The Institute of International Business and Management at Kanagawa University : IIBM) は、学問的には比較的新しい領域である国際経営に関する総合的・学際的な研究を行い、その研究成果をもって科学の発達と社会の発展のために貢献することを主たる目的としています。

当研究所では、上記の目的を達成するために各種の事業を計画的・組織的に展開していますが、そのような事業の1つとして地域研究並びに地域交流の事業を、地域交流室を中心に推進しています。研究所が視野にしている地域の範囲は、地域研究の分野では広く国内外の各地域を対象とし、また、地域交流の事業としては、1) 本学・学部が立地している平塚市および近隣市町村を中心とする湘南地域、2) 国内都道府県の各地域、および 3) アジア諸国の各地域、を想定しています。

当研究所が実施する地域交流という場合、1つには、国際経営に関する最先端の各種研究の成果を広く地域社会に公表する事業と、2つには、国際経営に関する複雑で多様な知識や技能や思考方法を広く地域市民に教授する事業、の2つの内容があります。前者については、従来経営フォーラムや国際シンポジウムの開催(地域他機関・団体との共催等)、機関誌『国際経営フォーラム』の配付などを通じて具体的に成果を積み上げてきています。

後者については、地域市民の生涯学習を支援する事業として、KU ポートスクエア「生涯学

習・エクステンション講座」の企画・後援、市民大学への講師派遣などを行なっています。

当研究所では、今後の地域交流事業の展開は、産公学連携の事業拡大や市民との交流促進をより積極的に推進することに置きたいと考えています。

2 地域交流事業の展開

当研究所では、地域交流事業の新たな展開として、第1に土曜教養講座を開催し、第2に移動市民大学を開設することを考えています。

① IIBM 土曜教養講座の開設

名称を「IIBM 土曜教養講座」として開催される本講座は、平塚市やその近隣の地域市民に現代社会の諸問題について学習する機会を提供し、これからの知識基盤社会での自覚的・指導的市民の育成に貢献することを目的とするものです。

この講座は、毎月第4土曜 14:00~16:00 に、平塚市内および近隣市町村の中規模以上の公民館等で開催する予定です。年 12 回の開催となるが、市民の評価と要請を踏まえ、さらに研究所の対応能力を測定した上で、2年後には開催頻度を年 14 回に増やしたいと考えています。

共催を予定している各地域自治会と協議の上、今年度の後期から実施できるようにテーマ・講師などの諸準備を進めています。

② IIBM 移動市民大学の開設

次に、移動する地域の範囲を広げて「IIBM 移動市民大学」を開設したいと考えています。従来、大学は一定の場所・施設に構えて、学ぶ側がそこに通うという方式で研究・教育が成り立っていますが、今後はその一部が学ぶ側の生活・職業空間に移動して、市民の求める知識や

技能を適時・適切な方式で教授する仕組みが用意されなければなりません。

新たに開設する研究所の移動市民大学は、そのような構想の具体的な1つとして実施されるものです。当該市民大学は、できれば今年度11月に開学し、四半期毎の年4回(5月、8月、11月、2月の第1土曜14:00~16:00)の講座開設としたいと考えています。開催の形態は、移動する県内外の市町村の教育委員会や商工会議所等と共催し、当該市町内の公的施設において実施することになります。

当該市民大学の講義運営に当たっては、年度毎(4回分)に統一論題を設定し、年間4名の研究

所スタッフ(客員研究員や非常勤講師等を含む)に講師を委嘱し、それぞれの専門の分野から講義する方法を組織します。そして、各回の講義内容は、研究所で『IIBM 移動市民大学講義』として編集・製本・頒布する計画です。

なお、統一論題としては、次のようなテーマが提案されています。

2006年度—「慣習と法律と倫理を考える」

2007年度—「わが国の人口問題を考える」

2008年度—「行政と市民の関係を考える」

2009年度—「消費生活のプロ化を考える」

2010年度—「地域の個性と国際を考える」

(所長/てるや・ゆきお)



新規共同研究プロジェクトの採択

先に今年度の新規共同研究の所内公募を行ないましたが、個別の問い合わせや相談は数件ありましたが、最終的には2件の申請となりました。この2件について、申請書類による審査を常任委員会で行いました。新規プロジェクトの採択に当たっては、次の6項目からなる審査基準を基礎として、厳正に決定することに努めています。

- i 研究目的の妥当性
- ii 研究計画の周到性
- iii 研究組織の共同性
- iv 研究領域の多様性
- v 研究機会の平等性
- vi 申請採択の公正性

審査の結果、2件の申請について新規プロジェクトとして採択することが承認されました。採択された新規プロジェクトは、少額の予算ながら今年度から3年間(成果報告も含めて)、研究所の共同研究プロジェクトとして大いにその成果が期待されます。新規プロジェクトのテーマと代表者は、次のとおりです。

①「教員採用試験に関する研究—経営学部の免許教科に即して—」(代表鈴木そよ子教授)



②「ジェノサイドの実態とその影響に関する研究」(代表木村章男助教授)

第2回インターゼミナール大会の実施計画

当研究所が行なう国際経営教育の支援事業として、学修上の手引として新入生を中心に配付される『ティーチングスタッフによる国際経営用語500選』の出版に加えて、昨年度新たに経営学部ゼミナール大会(インターゼミナール大会)を実施し、3年生を中心とする専門ゼミでの共同研究成果の発表と評価の機会を設定しました。

今年度は、昨年度の成果を基礎に、来る11月15日(水)に第2回インターゼミナール大会を開催することになりました。具体的な実施要領については、研究所常任委員会内に設置する実行委員会(委員長田中則仁教授)で詳細を決定の上、5月中旬にはゼミ担当の先生や学生諸君に通知したいと考えています。今年度もより多くのゼミの参加と活発な研究発表を期待します。

雨鵬から鬼ヶ城先生への私信

—復本一郎著『俳句とエロス』の読書ノートから—

照屋行雄

復本鬼ヶ城先生

謹啓 桜花爛漫の候 先生にはお変わりなく、ご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、先にご高著『俳句とエロス』（講談社現代新書）をご恵贈頂きました。雑事にかまけて、お礼を申し上げるのが遅くなりました。失礼をお詫び申し上げます。

今回のご高著について、ページを繰るたびに新しい発見と心の満足感が広がってゆく、そのような贅沢な気持で一度目は一气呵成に、また、日置かずして二度目はよく味わいつつ読ませて頂きました。なるほどと教えられる箇所に鉛筆でサイドラインを引きながら味読致しましたが、最後には殆どすべてのページがサイドラインで埋まってしまいました。本を読む喜びや学問をすることの素晴らしさを、改めて感じさせて頂きました。まずそのことにお礼を申し上げたいと思います。

読ませて頂いた内容に関して、若干の感想を申し述べ、感謝の意を明らかにしたいと思います。

第1は、俳句という詩型・文芸の性格について、俳句は花鳥風月だけを詠む文芸ではなく、今日を生きる実生活の一コマひとコマを自在に詠むことが可能な幅の広い文芸であると述べておられます。また、俳句はノンフィクションという観念も、間違いであると断じておられます。そのことは、俳句世界の入り口に立つ読者に安心と確信を与えて頂いたように思います。

第2は、人事を詠む俳句の中で、先生のエロティシズム俳句の領域を明らかにされ、その意義とともに草城句を中心に先人の佳句を披瀝されておられますが、俳句で表現できる詩情の広がり、俳句によって味わい得る人

事の面白さを教えて頂いたように思います。恋愛俳句、艶笑俳句、官能俳句（草城）、そしてエロティシズム俳句のそれぞれの違いが、先生の整理・解説でよく理解できました。

第3は、エロティシズム俳句の対象である女人、その姿態、身体的部位などについて、実に丁寧な個々のエロティシズム（俳味）を解説され、また、実際の該当句を紹介されておられます。読者は、これによってこの範疇に属する俳句の味わい方を知るばかりでなく、実作に当たっての俳材の選択と配置の方法を教えられたように思います。なお、若い人々にとっては、蚊帳、浴衣、足袋、櫛、帯などに女人の艶気・エロティシズムをどう感じ、

どう詠むかが俳句の継承という意味で1つの課題のように思います。

第4は、本書に掲載された多くの俳句の解説を通じて、俳句の味わい方、鑑賞眼の確

かさ、立体感や広がり、物語性などを学ぶことができたように思います。例えば、東京三氏の「寒潮に少女の赤き櫛が沈む」の句についての先生の解説にある、京三氏の「赤き櫛」と野口雨情氏の「赤い靴」の少女との連想のくだりを読めば、なるほど俳句を味わうときの連想の広がり、情趣の豊かさ、物語性の面白さが実感できます。

第5は、ご高著を読ませて頂いて、先生の俳句という文芸に対する深い愛着と、採り上げられた一句一句とその作者への限りない尊敬の気持ちを正しく感じる事ができました。何よりも読者に熱い思いと視線を置いた著者が、周到な設計に基づき洗練された文章によって語りかつ綴るとき、このような価値ある魅力的な知的作品が世に出るのだという典型のように思いました。

研究余滴

最後に、鬼ヶ城先生がこれまで『神大俳句』や『鬼』などに発表された俳句の中に、先生が範疇設定されたエロティシズム俳句に属する秀逸な句が数多く含まれており、それがまた鬼ヶ城俳句の特徴の一つのように記憶しております。自作解説の形で本書に一章設けて再び披瀝して頂ければ、新鮮な驚きをもって読者に迎えられたのではないかと考えました。敢えて一つ希望を申し上げれば、ということでございます。

私の取り違えがありましたら、お詫び申し上げます。先生の言われる“あえかなるエロティシズム”を、感覚的にも概念的にもより一層理解できるように、今後もさらに繰り返し味わいたいと思っております。ご高著に触れて、私のささやかな俳句実作の中で、この領域の句の一つでも多く詠めるように努めたいとの思いが、心ひそかに高まっている事実を告白しなければなりません。

どうぞ鬼ヶ城先生には、エネルギー切れとおっしゃらずに、ますます気力旺盛で学生諸君や我々俳句愛好者のご指導をお願い申し上げたいと思います。くれぐれもご自愛ご専一に過ごされますよう祈念申し上げます。

敬白

照谷雨鵬 拝

(所長／てるや・ゆきお)

SBM 研究センターの事業計画

当研究所常設の研究センターは、STS 研究センターと SBM 研究センターの 2 つがあります。SBM 研究センターは、中小企業経営の研究・教育・支援を主たる事業内容として設置されたものです。そこでは、湘南地域および国内外の中小企業経営の実態調査や経営環境の分析研究を中心に共同研究を行ない、その成果を学内外に公表しています。

今年度の SBM 研究センターは、これまでの調査研究の成果を基礎に本格的な実態調査

や分析研究に着手したいと考えています。その主な事業計画は次のとおりです。

① 特別研究「中小企業の経営環境と経営革新」の実施

この研究は、田中則仁代表を中心に専任所員および客員研究員によって組織されるプロジェクトで、研究成果の取りまとめおよび公表を行なう予定です。

② 学生ベンチャーの活動支援

この活動は、新会社法の適用や LLP の設立とともに、学生ベンチャーの相談が一段と活発になることが予想されます。研究所では、このようなベンチャー設立を考えている学生諸君の相談や指導などの支援を行なうため、SBM 研究センター内に小規模ながら学生ベンチャー支援室を設置し、内外の専門スタッフの協力を得たいと考えています。実際の本格スタートは 2007 年度 4 月からになるが、今年度後期にはそのためのパイロット事業を計画しています。

客員研究員の採用

今年度より新たに、李 貞和氏と張 本越氏の 2 名が客員研究員として採用されました。両氏とも本学大学院経営学研究科の博士後期課程を満期退学し、それぞれの専門的研究に従事しています。研究所では、主として SBM 研究センターの特別研究プロジェクトのメンバーとして、「中小企業の経営革新」の共同研究に従事することになります。両氏の活躍と貢献を期待します。

